

「命を見つめて」

田隈中2年 猿渡瞳さん

とにで金で
だ近がおん
何身と、な
て番ことも
っ一るでこ
せの知譽う
幸ちで名い
のたげ、と
当私かも
本がおでる
はせた位い
ん幸っ地て
さは、なき
なはには生
み実気れ
ん。病そ今、
んかを。「
さすたく
なまこしな
みいるまも
思あきです。

ンまいなと決き術ガりなば、とて手の送がれはるも骨を命けめせ闘足う活ばな初みと右い生れし。て気ちと病け断た。病勝腫闘負け断た。病勝と病け断た。病勝骨肉及氣にらまずか打骨及氣にらまずか打に病も受が、真病の年一者も宣し胸結果、病の年一者も宣し胸結果、六、時右しクけの結年約医足いでを結六、時右しクけの結学れ、嚴ッだそが残学れ、嚴ッだそが残小、これとヨ望。した小、これとヨ望。したは見。わいシ希た。しまは見。わいシ希た。しま私發。言なもしし。は私發。言なもしし。はがしとらて意まは

と亡くじで体る
 気に、ざ心続
 病次からまで生
 緒にかさ連続は
 一次や気のち
 にがち病查た
 間間赤も検私
 の仲間な齡る
 生活なさ年ゆら、
 生切小であが、
 病大のた。まあ
 闘のた。まあ
 の人しや療なり
 こ五まち治に闘
 、十きばいい死
 した、いおしボ
 かきてん厳口ボ
 してっや。ボめ
 っなちすもた

しかし、あまりにも現実には厳しく、みんな一瞬にして亡くなっていかれ、生き続けることがこれほど困難で、これほど偉大なものかということをお願い知らされました。みんないつの日か、

どりり康前ほ
て、きよ健りれ
くはがしあど
ながちそとが、
でき私た。達と
で。人す友こ
がうるでやうこ
とよいと族い
こしてこ家と
るでっう、る
けと闘いり、せ
続こととたご
きた気たっ過
生っ病い通を
にか、てに日
のしはい校毎
な悔の輝学に
れどた番でう
そほじ一体よ
れ感もなのど

気がたが、平にのりけ合
争や、苦怒だき向
戦め度どに
うじる体剣
合い見一真
してを。て
殺しスすし
がそ一ま対
人ユりに
と件二なス
人事いに一か。
中奪悲ぱニョ
のを、っのし
の命どいらで
このなでれの
今人殺ちそる
で自持がい

んどん消えていってしまふ。それを自覚しないと悪を平気で許す無気力な人間になってしまう」と書いてありました。

本当にその通りだと思います。どんなに小さな悪に対しても、決して許してはいけないのです。そこから悪がエスカレートしていくのです。今の現実がそれです。命を軽く考えている人たちに、病氣と闘っている人たちの姿を見てもらいたいのです。そしてどれだけ命が尊いかということを知ってもらいたいのです。

みなさん、私たち人間はいつどうなるかなんて誰にも分からないんです。だからこそ、一日がとてもしっかりと大切なことです。病氣になつたおかげで生きていく上で一番大切なことを知るこゝとができしました。今では心から病氣に感謝していただきます。私は自分の使命を果たすため、亡くなつたみなさんの分まで精いっぱい生きていきます。みなさんも、今生きていることに感謝して悔いのない人生を送ってください。

(2005/01/12) 西日本新聞 朝刊掲載